

## 謝 辞

このたび、「4. 1 自動車の走行に係る騒音」で示した技術手法を改定するに当たり、「道路環境影響評価の技術手法に関する騒音予測手法検討委員会」において、専門的な技術事項に関する審議をして頂いた。委員各位に対して、ここに衷心より感謝の意を表する。

また、地方整備局等の皆様からも、貴重な御意見を承った。ここに心より感謝を申し上げます。

### 道路環境影響評価の技術手法に関する騒音予測手法検討委員会 (平成21年度)

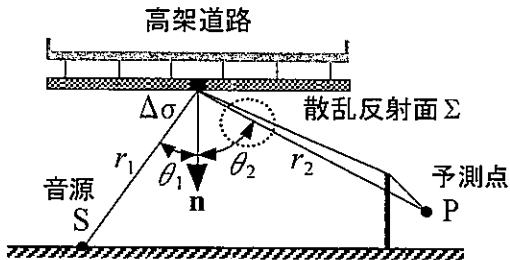
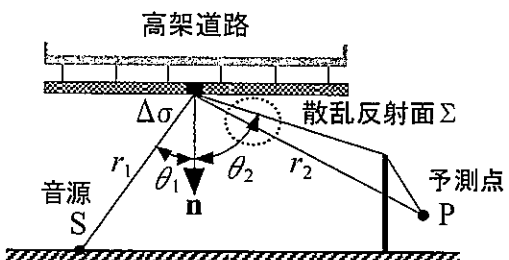
|     |      |   |
|-----|------|---|
| 委員長 | 橘 秀樹 | 千葉工業大学附属総合研究所 教授                          |
|     | 岩瀬昭雄 | 新潟大学 工学部 教授                               |
|     | 大西博文 | 財団法人 道路経済研究所 常務理事                         |
|     | 押野康夫 | 財団法人 日本自動車研究所<br>エネルギー・環境研究部 主管           |
|     | 山本貢平 | 財団法人 小林理学研究所 所長                           |
|     | 山本 稔 | 株式会社高速道路総合技術研究所<br>交通環境研究部環境・緑化研究室 研究担当室長 |

(五十音順、敬称略、所属は平成21年6月)

ASJ RTN-Model 2008 については転載のため電子データでは提供しません。  
学会誌等により入手願います。

訂 正

本誌 65 巻 4 号 小特集 「道路交通騒音の予測モデル “ASJ RTN-Model 2008” ー日本音響学会道路交通騒音調査研究委員会報告ー」において記述に誤りがありました。正しくは以下のとおりです。ここにお詫びし訂正いたします。

| 頁                   | 誤  | 正   |
|---------------------|--|---|
| p.206 の右段上から 6~7 行目 | <p>…, <math>L_{A2}</math> 及び <math>L_{A3}</math> は式(4.21)で <math>\Delta L_{dif, sb, 2} = 0</math> 及び <math>\Delta L_{dif, sb, 3} = 0</math> として計算する。</p>   | <p>…, <math>L_{A1}</math> 及び <math>L_{A2}</math> は式(4.21)で <math>\Delta L_{dif, sb, 1} = 0</math> 及び <math>\Delta L_{dif, sb, 2} = 0</math> として計算する。</p>  |
| p.208 の図-4.12(a)    | <div style="text-align: center;">  <p style="text-align: center;">高架道路</p> <p style="text-align: center;">散乱反射面 <math>\Sigma</math></p> <p style="text-align: center;">音源 S      予測点 P</p> <p style="text-align: center;"><math>r_1</math>   <math>\theta_1</math>   <math>\mathbf{n}</math>   <math>\theta_2</math>   <math>r_2</math></p> </div> <p>反射角 <math>\theta_2</math> は法線ベクトル <math>\mathbf{n}</math> と線分 <math>r_2</math> のなす角度となっているが、これは誤り。</p> | <div style="text-align: center;">  <p style="text-align: center;">高架道路</p> <p style="text-align: center;">散乱反射面 <math>\Sigma</math></p> <p style="text-align: center;">音源 S      予測点 P</p> <p style="text-align: center;"><math>r_1</math>   <math>\theta_1</math>   <math>\mathbf{n}</math>   <math>\theta_2</math>   <math>r_2</math></p> </div> <p>反射角 <math>\theta_2</math> は法線ベクトル <math>\mathbf{n}</math> と要素 <math>\Delta\sigma</math> の中心と遮音壁先端を結ぶ線分とのなす角度が、正です。</p> |